企画振興部広報県民課

「若者とともに進める信州創生　～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ　「この地域に若者を呼び込むためには？」

日　時　平成27年８月28日（金）　午後６時から８時15分まで

場　所　綿半総合研究所　Design Lab　コットン1598　飯田ショールーム（飯田市育良町）

目　次

１　開会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
２　ワールド・カフェ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
３　全体共有・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
４　講評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ10
５　知事総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ11
６　閉会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ14

進行役　　久保田淳子氏（シニア野菜ソムリエ　おいしい信州ふーど（風土）名人）
参加者　　公募による18歳から42歳までの男女
　　阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、ワールド・カフェ方式による意見交換を実施しました。
各テーブルの意見交換の内容は省略してあります。

１　開　　会

【広報県民課長　藤森茂晴】

皆様、お待たせいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを開催いたします。意見交換までの進行を務めさせていただきます、県庁の企画振興部広報県民課長の藤森茂晴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日の県政タウンミーティングは、地方創生のフロントランナーを目指す本県が、その未来を担う若い世代の皆様と意見交換を行う「若者タウンミーティング」でございます。第１回目を今年の２月、２回目を５月に、そして３回目は一昨日開催いたしました。この「県政タウンミーティング」今回は記念すべき50回目ということでございます。

それでは、おおむね20時頃までの予定で意見交換を行ってまいります。なお、この意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開させていただきますのでご承知ください。

本日のタウンミーティングは、ワールドカフェ方式で意見交換をしますが、その進行役となるカフェホストを久保田淳子さんにお願いしております。久保田さんの詳しいご紹介は、お手元の封筒の中にございます次第に記載してございますので、こちらのほうをご覧いただきたいと思います。久保田さんはご当地飯田市のご出身でいらっしゃいます。2011年に起業され、「食で南信州を元気に！」を掲げて、自らも伝統野菜の栽培に携わりながら食を通じた地域の魅力を発信されています。また、７月末現在、県内でお二人、全国でも132名しかいない野菜ソムリエの最高峰「シニア野菜ソムリエ」でおられまして、昨年からは県の「おいしい信州ふーど（風土）名人」にも就任いただき、各種の地域づくりに積極的に参画されるなど、多方面でご活躍中でございます。

それでは久保田さん、この後をお願いいたします。

２　ワールド・カフェ

【久保田淳子氏】

皆さん、こんばんは。今、ご紹介いただきました久保田淳子と申します。先程お話ありましたように、地元の飯田市の出身でして、私は一旦、飯田市から外に出ていたんですけれども、４年前にこちらに戻ってきてですね、起業をしました。久保田さんって言われますと、皆さん、何かどうですかね。普段は私、「クボジュン」で通ってますので、今日はクボジュンでよろしくお願いします。皆さん、私は日ごろ、本業の野菜ソムリエとしてのイメージが強いと思いますが、今日のプロフィールにも書いていただいてありますが、リニア時代を迎えるにあたって、この地域の魅力を伝えるには、食だけでなく、いろんな地域の魅力を知らなくてはいけないと思い、さまざまな地域活動に参加させてもらっています。まだ飯田にはコワーキングスペースが無いということで、丁度、今、私が所属しています南信州コワーキングスペース研究会が主催して、飯田にコワーキングをつくりたいというメンバーが集まってお試しコワーキングを開

催しています。そんな活動にも参加させていただいたりしています。私の活動の中で、長野県各地の方達と結びつきを持たせていただいておりまして、今日のお話をいただいたのも、長野県庁の若手職員の方で立ち上げたSHIP、信州イノベーションプロジェクトという団体がありまして、知事がアドバイザーをつとめられていらっしゃいますが、そのうちの一人の共同代表の方が今日もホスト役で来てくれています。そこの共同代表の一人の方から声をかけていただきまして、クボジュンさんに声掛けなきゃ怒られるかなって言われながらですね、今日はさせていただいております。光栄に思っております。今日は知事に来ていただき、皆さんと一緒に有意義な時間にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。遅くなりましたけれども、私、さっき紹介の中でもありましたように、伝統野菜の栽培もやったりしておりまして、今日はこんな恰好していますけれども、もんぺを穿いて山の方に農作業に出かけたりと、そんなこともしております。

始まる前に皆さんにご紹介をしたいんですが、今日、ワールドカフェをやりながら皆さんに召し上がっていただく飲み物とお菓子をご用意しております。一つはそちらのテーブルにも用意させていただいてあります紅茶ですね。これは天龍村の天龍農林業公社からご提供いただいた地元のお茶でつくった紅茶です。こちら、ご自由にお飲みいただければと思います。そして、もう一つ、お菓子があります。先程、私が「おいしい信州ふーど（風土）名人」だとご紹介いただいたんですけれども、伝統野菜もおいしい信州ふーど（風土）の一つなんですが、阿智村清内路の清内路かぼちゃを使ったマドレーヌをご用意しました。こちらのすぐ近くのノエルさんのものです。皆さん、飲みながら食べながら、気軽な雰囲気で臨んでいただけたらなあと思います。

では、今日の本題に入っていきたいと思います。スライドに映しながら説明しますので、見える所に顔を出してください。今日のテーマ、皆さんにも事前にお伝えしておりますとおり「この地域に若者を呼び込むためには？」ということで意見交換したいと思います。ざっくりとしたテーマではあるんですけれども、「この地域」っていうのは皆さんのお住まいやお勤めの市町村であったり、飯田下伊那っていうくくりかもしれません。南信とか長野県ということかもしれませんが、皆さんが思う地域に対して「若者を呼び込むためには」と考えていきたいと思います。具体的には、若者にとって住んでみたい、帰って来たい、住み続けたい、と思える魅力ある地域ってどんな地域ですかということを考えます。そう思える地域になるために、何をしたいのか、どうしたらいいのかということを意見交換したいと思います。

ここで、阿部知事に一言お願いしたいと思います。

【長野県知事　阿部守一】

皆さん、こんばんは。今日は県政タウンミーティング参加をいただいてありがとうございます。そして、クボジュンさんにも進行役を引き受けていただいて、ありがとうございました。また、この間は、わざわざ小布施にも見学にお越しいただいてありがとうございました。私が冒頭でいろいろ言うと皆さんの意向を縛ってしまうので、あんまり言わないようにしようと思いますけれども。

今、長野県では地方創生の総合戦略をつくっています。今のままの状況でいくと、30年間で

人口が50万人減るというのが人口推計です。私、今日の名札「あべべくん」なんて書いたんですね。皆さんの世代でアベベ選手の話題なんて通用しないってことを忘れて、つい。ちょっと年齢ギャップを感じるようなニックネームをつけてしまいましたけれども、今回の地方創生の総合戦略は人口問題をどうするかという話。人口の話を考えるときには、来年とか再来年こうしようみたいな短い話じゃなくて、今生まれた子どもたちが大人になる20年後はどうするかとか、あるいは皆さんが年をとって老後の暮らしをする地域は一体どうあって欲しいのかとかですね、是非、20年、30年、50年、100年、それくらいの長期を見通した中で、どういう地域になればみんなが住み続けたくなるのか、来たくなるのかということを考えてもらいたいと思います。おとといもタウンミーティングやったと言われまして、千曲市の屋代高校附属中学校３年生80人とやりましたけれども、非常に面白いユニークな提案をいっぱいしてもらいました。今日も大変期待して来ております。特にクボジュンさんも言ってもらったように、飯田周辺はリニア駅もできます。今から12年後の開業予定となってますね。せめて20年後、30年後考えたら、この地域は今とは全く違うと考えてもらわなければいけない地域だと思います。是非、そうしたことを頭に置いていただきながら、でも、だからといってあんまり理屈っぽい話でなくていいですから、皆さんが本当に心の中で感じている、どんなまちがいいのか、どんな人達と暮らしたいのか、どんな働き方がいいのか、どんな暮し方がいいのか、是非、そういう率直な意見交換をして、一緒に長野県の未来を考えてもらえればと思います。

長くなって恐縮ですけれども、クボジュンさんに戻します。よろしくお願いします。

【久保田淳子氏】

知事、ありがとうございました。では、この後はですね、今日の流れについて説明していきたいと思いますが、本日の進め方はワールドカフェ方式というやり方でやります。事前に県からお配りした資料の中に説明があったと思いますが、最初に座っていただいているテーブルで１ラウンド目をやっていただいて、２ラウンド目、３ラウンド目は別々のテーブルに移動して違ったメンバーと意見交換していただくという形になります。各テーブルに予めホスト役をお願いしてありまして、ホストだけは同じテーブルに残る形になります。皆さんの前に模造紙とペン、付箋を用意してありますから、アイデアは是非、どんどん付箋に書き込んで貼り付けていってください。自分が発言したものだけでなく、他の人の意見を聞いて感じたことなどもメモ代わりに使っていただきながら自由に書き込んでください。この中でワールドカフェやったことある方はどのくらいいますか。（挙手）はい、ありがとうございます。今の時点で、こういうところ分からないというの、ありますか。大丈夫でしょうか。分からないところあれば、この後、各テーブルホストに自己紹介してもらいますので、ホストに聞いてもらったりお願いします。

本日のスケジュールをご案内します。この後のワールドカフェは20分を３ラウンド行います。その後、各テーブルで出た意見をまとめて、ホスト役に発表してもらいます。そして私が講評をさせていただいて、知事に総括をいただきます。皆さんにお配りしてあります封筒の中に「振り返りシート」というものがありまして、そちらを最後に記入していただきます。今日の感想であったり言い残したこと、５分ほど時間をとって書いていただこうと思います。20時終了予

定で、最後に私の強い希望もありまして、知事を囲んで皆さんで記念撮影をして終了とさせていただきたいと思います。

始まる前に少しお願いです。今日はニックネームで呼び合ってください。さっき知事からは「あべべくん」というニックネームがありましたけれども、知事も今日は「あべべくん」でお願いします。そして、各テーブルのホスト役の指示に従ってください。それから、ここは今日一番大事なところですが、ポジティブに積極的な発言を是非お願いしたいと思います。どうしても、地域に住んでいると愚痴りたくなることもあるかもしれませんが、今日は、できるかできないかは別として、思い切ってポジティブな発言で知事をあっと言わせるような意見をお願いしたいと思います。そして、できるだけ沢山の方のご意見を反映したいので、一人の方に発言が集中しないように、短く簡潔にお願いします。最後、他人の意見は否定しないということ。いろんなジャンルの方が集まってくださっていますので、自分の意見とは違うというものでも、お互い尊重しつつご協力いただければと思います。

（テーブルホスト５名の自己紹介）

【久保田淳子氏】

では、皆さん、各ホストの指示に従いながらお願いします。簡単な自己紹介をしてから意見交換を始めてください。よろしくお願いします。

（第１ラウンド開始）

（第１ラウンド終了）

【久保田淳子氏】

20分経ちました。それでは２ラウンド目、お配りした皆さんの名札の裏に次のテーブルのアルファベットが書いてありますので、そちらにお水とお菓子と資料を持って移動してください。紅茶も自由にお飲みくださいね。

では、全員揃ったところから、順次始めてください。ホストの方は第１ラウンドの状況を説明してあげて、また自己紹介から始めてください。

（第２ラウンド開始）

（第２ラウンド終了）

【久保田淳子氏】

20分経ちましたので、今話している人で終わりにしてください。

それでは、移動して、第３ラウンドをお願いします。揃ったところから始めてください。

（第３ラウンド開始）

（第３ラウンド終了）

３　全体共有

【久保田淳子氏】

いいですか、全体共有の時間になります。

では、Ａテーブルから発表お願いします。皆さん、お聴きくださいね。

【Ａテーブル】

Ａテーブルでは、自己紹介の中で「子育て」というキーワードが一番最初に出ましたので、そこから入ってみようということで「子育てについてどうするか」という話がありました。この地域で子育てをする一番の魅力は、やっぱり自然。例えば、川で遊べる、虫を取りに行ける、秋になればキノコ狩りとかもできます。幼少期をそういう自然の中で遊ぶという考えもありましたし、高校を卒業した後、大学が必要かどうかという話もありました。ほとんどの方から大学という話がありましたけれども、大学はいらないという意見もありました。理由とすれば、やっぱり大学くらい出ないと外に行く経験がないということがあります。ですので、外に出てまた帰ってきて欲しい、そういう地盤づくりをしてほしいという話しがありました。長野県は移住政策の中では全国でも一番二番を争っている県でもあります。ですので、もっと移住政策の拡充をと。移住で一番は、相談窓口が充実しているかどうかということが一般的に言われていますので、そっちは行政にお願いするところもありますけど、情報発信は一市民でもできますので、そういうものは頑張ってみんなでやっていければと思っています。

あとは、「圧倒的な田舎」ということですね。そういうものをこの地域につくったらどうかという話がありました。例えば、これはソフト面よりもハード面になりますけれど、リニアの駅ができるときの話として、降りた瞬間の景色に長野県らしさが見られることが可能な駅づくりをしてはどうかという話も出ました。

あとは、幼少期の田舎暮らしというのもあったんですけど、やっぱり地方ばかりじゃなくて、都市部の生活も両方知っていてほしいということ。両方知れば、両方のいいところ悪いところが見えてきますので、そういうものはやはり是非取り入れていっていただきたいと。やっぱりそれが一番人間らしい生き方なのではないかという形であります。じゃあ、人間らしい生き方っていうのは何かというと、これは私の考えも多少入りますけど、自分で作った物を自分で食べるとか、晴れの日に働いて雨の日は休息の時間という晴耕雨読が、やはり人間らしい生活ではないかという話になりました。

観光面とか文化面では、やはりお祭りが多い地区でもありますので、そういうものをもっとうまく情報発信、情報拡散できればということもありましたし、今、焼肉っていうことを盛んに言われている地区でもありますので、是非その焼肉文化をもっと表に出して、それをすごく

尖ったものにするような形の文化を作っていければいいと思います。

ですので、そういうシンボルというものをたくさんある中でひとつかふたつくらいに絞って、例えば「この地域はこういうものがいい」というものをこれからつくっていければいいかなあという形です。これは焼肉でもいいと思ってます。この地区は、牛、豚、羊、鳥、鹿、熊、イノシシ、馬、いろいろなものを食べます。そういうものもひとつの文化ですので、そういうものを前面に出す。この地域といったらこういうものだというシンボルをつくってはどうかということで、一通りのまとめをさせていただきました。うまくまとまっておりませんが、A班のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

【久保田淳子氏】

ありがとうございました。続いてＢテーブル、お願いします。

【Ｂテーブル】

１回目は医療の充実の関係がいろいろでました。また、そこから企業や誘致の話もでました。

２回目は空間づくりの話がでました。特に、飯田線と居酒屋とか、飯田線とオフィスとか。最近、図書館とカフェみたいなのが流行ってますけど、ああいう異なったものを組み合わせるとおもしろいんじゃないかと。アウトドアの空間では長野県が強いので、そういうのが大事なんじゃないかなと話がでました。ちょっと面白かったのを２つ。２回目のグループの時には、野外ロックフェスをやろうと。これが中山間で思いっ切り大きい音を出すと、有害鳥獣対策にもなるんじゃないかという話になりました。実際あるんですよね、そういう効果が。天龍村ではやっているそうです。

３回目になったときには、さっきの医療とか起業というところで、安心安全というキーワードが出てきました。安心安全ということで、ひとつはもちろん防犯とかの面もあるし、もうひとつは挑戦しやすいとか自分が持っている思いをすぐ形にできる安心安全があれば、若者も来てくれるんじゃないかと。起業の中でひとつに、古民家リノベの話があった中で、この地域はこの地域ならではの大切な文化・建物があるんじゃないかと話がでて、やっぱりそれを活かした雇用とか産業が大事だと話が出ました。これは逆に言うと、中の人はなかなか気づきにくいので、外からの視点でそれを活かしてもらうというのもこれからの課題だと思います。交流コーディネーターについて、いきなり外から人が来たときにこの地域に飛び込むのは大変だから、一回、飯田下伊那から外へ出て、外のことを知りながらこちらへ戻ってきてくれた出身者の方が、例えば交流コーディネーターになって外の人と中の人を結びつける。そういのがすごい大事なんじゃないの。これって、新しい職業、起業してこういう職業が別にあってもいいんじゃないのという話がありました。大学をつくる話の中で、もしかしたら大学の中に交流コーディネーターを育てるプログラムがあってもいいんじゃないかというところで、終わりました。

【久保田淳子氏】

ありがとうございました。続いてＣテーブル、お願いします。

【Ｃテーブル】

１回目、２回目、３回目といろんな方が集まる中で、全然違う視点での話が繰り広げられ、とても面白かったです。そして、懇談はまとめにくかったですが、簡単に三つのポイントに絞ってお話したいと思います。

まず一つ目が、都会と同じ物を目指したとしても勝てることはない、であれば、自然環境や田舎らしい良いところは日本全国たくさんあるんだけど、やっぱりここにしかないもの、そういったものってなんだろうというところから出てきたのが、伊那谷とか南アルプスとかいった昔から地形に守られてきたもの、残されてきたもの、ある意味マニアックなもの。さっきお祭りという話も出ましたけど、何百年も続くお祭りだったりとか、長い歴史、伝統、文化、そんなものがやっぱりここにしかないんじゃないか、そういった話が出ました。その中で、飯田はある程度都会でもいいんじゃないかと。飯田の周りには、めちゃくちゃ秘境な場所、村々がたくさんある。であれば、都会から来る人たちもいきなり秘境に行くのはちょっとハードルが高いだろうから、まずは飯田でお試しみたいな感じで、秘境の良さだったりこういった地域の良さを感じながら、例えば天龍村、売木村、阿南町などいろんなところに遊びに行って、「自分は天龍村が良い」だとか「私は阿南町が良い」みたいな感じで、いろいろお試しで感じつつ、ステップ、ジャンプして秘境の方に住めばいいんじゃないかという話が出ました。そういった話の中から繋がって、飯田下伊那で秘境連合を作ればいいんじゃないかと。「何とかを守る会」というのがあるように、「日本の秘境を守る会」といったような会をつくればいいんじゃないか。そういった話も出ました。

二つ目が、先程子育ての話が出ましたけども、こちらでもそういった話が出ました。地域全体で子育てをしていく仕組みというといろいろ話があると思うんですけど、「子ども求む」、例えば３歳以下の子どもを求むといった感じで、求人ではないですけど、そういったものを出してしまって、大人はついでに拾ってあげるよというくらいにすればいいんじゃないかと話が出ました。例えば、おばあちゃんが料理をしながら食堂を経営して、おじいちゃんが子どもの面倒をみるとか、おじいちゃんおばあちゃんが保育をするとか、今までの保育の枠にとらわれない、地域で子どもを育てるという、新しい子育て県に長野県全体がなっていけば面白いんじゃないかという話が出ました。

最後に三つ目なんですけど、なかなかUターンの人が戻って来なかったり、どうすれば若い人がもっとここに来るのかというキーポイントのところで、やっぱり若者がこういった地域に住むイメージがなかなかできないんじゃないかという話が出ました。理由としては、やっぱりメディア。東京一極集中のメディアがあって、中高生、大学生がテレビをつけると、東京の街で煌びやかな暮らしをしているようなドラマがやってたり、情報が東京、東京で。そういった情報ばっかり観ていると、なかなかこっちでの暮らしのイメージができないんじゃないか。そこから、東京一極集中のメディアを排除して、地元放送中心のテレビ局をつくって長野県ではそればかりを流すというのはどうか。例えば、お盆やお正月には、空き家情報とかこんな職があるという情報があったり、また、ひたすら星空が流れているテレビ局があったりとか、やっぱり情報発信はそういったところから大事なので、ここから改革を起こせばどうかと、そういった話で最後はまとまりました。以上です。

【久保田淳子氏】
ありがとうございました。次、Ｄテーブル。

【Ｄテーブル】
いっぱいいろんな話があった中で２分は苦しいですが、まとめます。私見も入ってしまいますが、いろんな話が出ました。定住、観光、若者が地元を出る前に地元を好きにならないとか。話をしていてすごく大事にしなければいけないのは、地元に対してちょっとだけ積極的な人をすごく大事に育てていかなければいけないんじゃないかなと思いました。自分もそうなんですけれど、今回に合わせて帰省するような人はあんまり期待しない方がよくて、東京にいるけど地元が元気なくなっているのが何か気になるよっていう人、そういう人が少しでも地元に帰って来たときに、あそこに行ってみると何か気になる人や面白い人に会えるとか、地元の若者を応援したい人はそこに行くとちょっとだけ意識の高い若者に会えるとか。そして、それからの縁ができるかもしれない。そんなスペースがあったら。興味本位で農業やってみたいなっていう人がちゃんと農業できるようになったり、しかも農業やっていく中でいろんな苦しいことが何年単位でやってくると思うんですが、そういうのを支えていく地域の形があるってのはすごい大事なんじゃないかなあって思いました。
積極的な人って今もいると思うんですけど、もっともっと増やしていかなければいけないと思いましたら、ここにいる高校生の子が、そういう人を育てる変人を定期的に高校に呼んで講話をさせるという「変人講話」をやるぞと言ってくれました。ちょっと飛び出ちゃってる人に少しでも触れて、中に籠りがちな人達を外に出してちょっとだけ積極的な人にして、地元等にちりばめていこうと、そういう感じで、自分の中では「ちょっとだけ積極的な人」というのにフォーカスをしたまとめ方をさせていただきました。

【久保田淳子氏】
ありがとうございました。最後ですね、Ｅテーブルお願いします。

【Ｅテーブル】
我々は、まず「この地域に若者を呼ぶためには」という設問についてクエスチョンがありました。そこで、この地域って何だろうという定義について話しました。南信州とか南信とか飯伊とかいろいろ呼び方はありますけれども、やっぱり飯田下伊那なんじゃないのっていうことです。それから若者って何だろうということで、田舎へ行くと 60、70 代でもまだ若手だっていうことがあったり、そういったところで若者っていうのは次の世代に担っていける 16 歳から 40 歳とかの世代なんじゃないかなとか。呼び込むっていう意味は、最終的には定住ということなんじゃないかと。
きっかけになるのは観光面ですね、山とか自然とか。いろいろな体験ツアーなどを一つのきっかけにしてこの地域を知ってもらい、今回農業っていうものに非常に話が及んで膨らんだんですけど、その先にある一つは、ライフスタイルとして兼業農家みたいな形でやっていける人。

若者が好きな生き方ができるっていうのが、今この世代で重要で受け入れられやすいものなんです。兼業農家だと一つの家が一つの社長さんみたいな形でできる。そう働きながら、自給自足的な暮らし方ができる。でも、そうは言っても最近の農業はプロフェッショナルになってきて、堆肥を数式で表すような科学的な農業になっている。そういうところから企業農業という形、ライフスタイルではなくちゃんとした産業としての農業が必要なんじゃないかと。そういう農業でいえば二本立てですね、一つは暮し方を提案する。もう一つは働き方を含めた定住に結び付ける。あと、外貨の獲得ということで、我々が生産したものを外に売り出すことによって外貨を獲得する。そこまで見こした産業ができればいいんじゃないかなというのが二本柱で、定住っていうのにも結び付けられる可能性があるんじゃないかと話しました。

この地域の特徴としては、長野県は山に守られています。台風がきても長野県だけ警報がでていない。安全・安心にいられる。そういうところも一つ、定住してもらうためのポイントであって、その辺を盛り込んでいけばいいんじゃないかなという話にもなりました。以上です。ありがとうございました。

４　講評

【久保田淳子氏】

はい、ありがとうございました。今までの発表、ホワイトボードにまとめさせていただきました。本当に多種多様な意見が出まして、これを私がまとめるって大変だと思ってるんですけど。どこのテーブルでも活発な意見が出て、すべてについて触れたいところではあるんですけど、私が良いなあと思ったところでお話をさせていただきたいと思います。

まず、これいいなと思ったのが、飯田でお試ししてから秘境にステップ・ジャンプ。私も伝統野菜の栽培とかでいろんな秘境から秘境に足を運ばせていただいているんですが、東京生まれ東京育ちの知り合いが来たときに、いきなり下栗に連れて行っちゃったんですよ。そしたら車酔いしちゃって。ここから１時間かかりますって言ったら、高速で行くと思われたり、まさかこんなくねくね道だとは思っていなかったとか。東京の方だとそんなイメージなんですよね。だから、いきなり秘境に連れていって嫌いになられてしまうよりは、飯田くらいのところで環境を好きになってもらって、そこからどんどん秘境の魅力に引き込んでいくのはいいなあと思いました。折角、この地域、こんなところに人住んでいるのかという秘境がいっぱいありますので、どこの村ということではなく、秘境という一つのくくりで売りにするのはありだと思います。これは長野県の中を見ても、これだけ秘境があるのは飯田下伊那の特徴かなと思います。

あと、変人ですが、私も飯田下伊那変人チームのメンバーと自称していますが、この地域は本当に変な人多いなあと思っていて、それって売りになるんじゃないかなあ。長野県どこをとっても自然はそんなにすごい差があるわけではないと思うので、自然を売りにしたところで飯田下伊那を選ぶのって、なかなかつながらないと思います。やっぱり人の魅力で、こういう面白い人がいるからここに会いに来てくださいというのがいいかなと思っています。こういった変人に会うには、帰って来たときに出会える場所がある、相談にのってもらえる、地元の情報

がもらえる、今やっているコワーキングスペースのような場所もそうなのかなと思います。

あとは、「一度は外に出る」。大学の関連で出ましたけれども、田舎と都会の経験ということで、一度外に出て都会を見ることで長野の良さが分かることはあると思いますので、これからの若い人達は一度は経験してもらって、両方を知った上で田舎の魅力を伝えてもらうというのがいいのかなあと思います。

本当に沢山出ましたのでまとめきれないんですけれども、私からのまとめはこの辺りにさせていただきます。皆さんの活発な意見交換を見て、私も本当に中に入りたくてしょうがなかったです。皆さん、３ラウンド、１時間にわたってやっていただきましたが、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

では、知事から総括をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

５　知事総括

【長野県知事　阿部守一】

どうも皆さん、ありがとうございました。

皆さんと話すときは、あまり知事の立場で話さないようにしてましたけれども、ここは名札外して知事として話をさせていただきます。具体的な話も含めてですね、いろいろ提案していただきましてありがとうございました。時間も短いし、掘り下げた議論までには進まなかったところがあると思いますけれども、皆さんのアイデアを参考に、私なりに掘り下げて考えるとこうなるんじゃないかなあというのをお話したいと思います。今日の皆さんのお話から、私が引き出せそうだなと思ったのは10幾つあります。

まず、都会と田舎の両方あるよねっていうのは、私もそういう観点は大事だなと思います。もっといえば、日本と海外の両方を知る必要があるよねと思って、今、県立大学の構想をつくっています。いろんな経験とか体験することによって人間の視野は広がってくると思うんです。長野県では総合戦略をつくっていますけれども、基本的に、クリエイティブな人材を育てないと地域間の競争に確実に負けると思っています。もともと日本は資源がない国ですから、教育は大事だというように取り組んでいたはずですけれども、今、世界の国々と比べたとき、日本の教育ってレベルが下がっていると。学校のお勉強ができるとかできないとかじゃなくて、広い視野を持った人間を育てるという観点が非常に希薄な取組になっているんじゃないかと思っています。そういう意味で都会と地方の両方を知る必要があるよねっていうことから考えれば、是非、都会の学校と飯田下伊那の学校を具体的に交流連携させてしまって、夏休みは生徒まるごと変えちゃう。場合によったら先生もくっつけて横浜市の小学生が先生と一緒に地方校舎で学んで、売木村の子どもたちは横浜市のみなとみらいの横の学校で夏は勉強する。それぐらいのことを考えた方がいいかなと思いました。

それから、空間づくり。最近、グランピングという動きが出てきています。今日使わせていただいたここ、綿半の人達がこういう場所をつくってくれているんですけれども、東京の銀座にも銀座ＮＡＧＡＮＯをつくって、銀座ＮＡＧＡＮＯにも課題はありますけれども、場所的に

は良いと思いますし、なかなかセンスいいよねって前向きな評価いただくことが多いです。それは何かって言ったら、そこに行ってみたい、そこに居心地がいい空間があるかどうかということが結構大きいんじゃないかと。銀座ＮＡＧＡＮＯは、ちょっとまだ、居心地いまいちですけども、そこの上に同じ綿半のスペースがあるんで、あそこは結構居心地いいんじゃないかなと私は思ってます。そういう意味で、空間をどうつくるかということをもっと真剣に考えないと。とりあえず、人が住めればいいご飯が食べられればいいというような、空間が二の次の扱いになってやしないかなと思っています。快適な空間、人が集まりたくなる空間、にぎわいを引き出せそうな空間、こうした空間を建物の中でも、あるいは、長野県は屋外でもですね。ヨーロッパの街でいつもいいなと思うのは、外に人が集う空間があります。広場があって、その周りには居心地がいいカフェがあって、これはもう何百年も前から文豪がここでお茶を飲んでいたんだよというストーリーが紡まれているようなものを、是非つくっていく必要があるんじゃないかと思います。

それから、飯田線の居酒屋とかオフィスとか、飯田線これからどうするのって課題だと思います。お金もかかるし、ＪＲ東海もあんまりそこまで踏み込む考えもなさそうだなということであれば、もっとうんと違った観点での発想をね。折角あれだけ駅の距離が近くて、折角あれだけくねくね曲がっているんですから、もっと別の使い方を積極的に考えて。リニアと飯田線を対比すれば、リニアは今までの鉄道の概念とは相当違ってくると思います。そういう意味で、飯田線も今までの鉄道の概念を取っ払って、どう使うかというのを地域で考えてみてはどうかな。我々も一緒に考えますから。そう思いました。

私、これ、是非やりたいなと思うんですが、反対意見も出そうなんですが、鳥獣被害対策の野外ロックフェスティバル。若者を引き寄せると同時に地域の問題に対応できる一石二鳥の良い政策だなあと思いますので、天龍村の先進事例を学ばせていただきたいなあと考えたいと思います。

それから、大学の話がありました。今、県立大学をつくってますけれども、さっき言ったクリエイティブな人材を引き寄せて育てていく上で、高等教育は大事だと思っています。例えば、二年前に台湾の高雄市に行ったとき、さんざん向こうの人達と酒を飲みました。高雄市役所の部長級の人達はみんなドクターだったのでびっくりしました。これは台湾全体で、もっと学ばせて高学歴のドクター、マスターそういう人材を積極的に登用しようということで政策を打っているようですけれども、やっぱり日本全体も少子化だから大学なんてもういらないんじゃないの、あるいはこれから高等教育なんか受けたってどうしようもないんじゃないのっていう意見も片方でありますけれども、私はまったくそうは思っていなくて、むしろ人の能力を極限まで高めていくような県にしていきたいなと思っています。

それから、さっきの飯田線とも関連しますけれども、この下伊那地域は、是非、秘境を守る会をつくっていただいて、日本の秘湯を守る会と同じように、日本の秘境を守る会をこの飯田下伊那から発信してはどうかなと。総合ヘッドクォーターを売木村に置いたらどうかなと思いますけれども、そういう逆手に取った施策をしっかりと考えていく必要があるかなと思います。

子ども支援、子育て支援。これからの社会にとって大事ですけれども、私も一緒に入って話を聞かせてもらってそうだようなと思ったのは、行政って考え方が結構中途半端です。思い切

れない。さっきの話みたいに「子ども求む」。これ、ストレートでいいなと思っています。国はＣＣＲＣで高齢者の移住やってますし、地方は、どっちかというと、働き盛りの人達とか子育て中の人達とかという中途半端なことやってますけれども、そのものズバリ「子どもを誘致する」。子どもの時から信州人にしちゃう。で、さっき言ったように、だけど、都会とも交流してる。そういう新しい地域像をつくっていく必要があると思います。

あと、メディア。私があんまり言うとメディアの人達に怒られちゃうんであんまり言いづらいんですけれども、私はいろんなところでいろんな仕事をしてきましたが、日本の東京一極集中がなかなか改善されない一つの大きな要因は、メディア自体が一極集中だから。地方議会、何県がこんな提案しますというのはどこのテレビ局でもどこの新聞社でも言ってますけれども、自分達は一体どう考えているんだろうかと私は思っています。いつも大都会中心の放送をしているってのは、本当に東京一極集中を是正するどころか、促進をさせているんじゃないかと感じます。アメリカ行けば、ニューヨークはニューヨークタイムズという地方の新聞が有力な新聞になっています。日本みたいに全国紙一面を見れば、県議会とか市町村議会じゃなくて、国会がこうですというところから常に始まる。もちろん、国会の議論も大事で国の動きもちゃんと書いてもらわなければいけないけれども、でも、もっと身近に関係することが市町村議会とか県議会でいっぱいやってるじゃないかと私は思っています。だけど、我々地方公共団体がいくら皆さんに伝えようとしてもメディアがほんの一部しか割かない。テレビは長野県の場合、それでも夕方の放送時間帯は結構、長野県のニュースやってくれているんですごく助かってますけれども、首都圏の周辺、私は横浜にいましたけれども、横浜なんていろんなこといっぱいやっても横浜市民にはほとんど伝わってないですね。横浜市のような大都市でさえ、ローカルなニュースはほとんどやってることを取り上げない。こういうことが続くと、どうしても地方って何もないよね、面白いことないよねという話に知らず知らずのうちに刷り込まれてしまっているんじゃないかなと思います。そういう意味で、メディアのあり方は、是非メディアの皆さん自身が考えてもらう時期に来たのではないかなと思います。

それから、変人講話は是非やってもらいたい。地域を変えていくのは、常識人ではなかなか変わっていかないだろうと思います。今までの発想にとらわれないこと。さっき言ったように20年後、30年後の社会というのは今の常識とはまったく違う社会になっていると思います。今の常識で語っていれば、どんどん時代遅れになるというのが私の感覚です。そういう意味で、変人、変わり者、そういう人達がもっと社会にコミットできる、あるいは社会がいろんな対応や理念を受け容れられる形に変えていくことが重要だと思います。

産業の話で、半農半Ｘ（エックス）とか、この伊那谷には昔から農工一体ということが言われていますけれども、世界全体の発展というのは分業化する中で発展してきた。それはそれでものの豊かさを追求する上では良いことだったとは思います。だけど、これからの日本の社会は、一人ひとりの暮らしを見たときに、専門化、分業化が進み過ぎると、自分は一体、社会の中で何をやっているのかよく分かんなくなってくるんじゃないかと私は思ってます。私は県知事ですから県の仕事全体を見ていますけれども、多分、県の職員でまだ入りたての担当者は、自分の仕事は世の中で一体どういうウェイトを占めていてどんな役割を果たしているのかっていうのは見えずらい、分かりづらいと思います。そういう意味で、これまで一人ひとりの分

業化を極限まで突き詰めてきたので、もうそろそろ少し反転をさせて、もう少し全体的に世の中を、一人多役であったり、一人の守備範囲を増やしたり、違う職業を二つ掛け持ちしたり、そういう社会のあり方を真剣に考えなければいけないと思います。

最後、農業をはじめとして、稼ぐ仕組みをつくらなければ、いくら定住だと言っても絵に描いた餅になってしまうと思います。私は、経済の地域内循環と県外、地域外から稼ぐ力を高めるということが重要だと思っていますが、是非、皆さんにはがめつく稼ぐという観点をしっかり念頭に置いた地域づくりを考えてもらいたいと思っています。私もいろんなところに行くと、ここ、良い観光地でしょ、良い景色でしょ、こんな良い物産をつくりましたということをいろんなところで言います。でも、それってどこで稼ぐの。景色が良くたって観光客が100万人来たって、お金を落とすところがなければ、地域にはゴミ落ちるだけで一銭も得にもなりません。利己的なことで儲けろ言っているわけではなくて、お金がなければ持続可能性がありません。だから、お金が回る仕組みをつくらなければ、良い所に人を呼び込むことすらできなくなってしまうと私は思っています。そういう意味では、世のため人のためということを考えても、やっぱり自分達の地域、どうやって稼ぐのかという視点は常に持っておかなければいけないだろうなと思っています。

皆さんの発言からいろいろ着想を得て、今申し上げたようなこと、なかなか行政がすぐ実現できないようなこともありますけれども、今言ったようなことをやっていったらどうかなあというインスピレーションを回答しました。皆さんの発言を、まだ網羅的にはなっていませんけれども、私自身、今日は大変勉強になりました。時間が無いので今日は私が一方的に話しましたけれども、私がお話したようなことも、ちょっと頭の片隅に置いていただいて、是非それぞれの地域でそれぞれの役割をしっかり果たしながら、一緒になって飯田下伊那を元気にしてもらいたいし、長野県全体が元気になるように協力をしてもらいたいと思います。どうも今日はありがとうございます。

【久保田淳子氏】

ありがとうございました。今日、いろんな意見が出ましてので、皆さん、是非、実践してくださいね。明日からできること、それぞれ、一人ひとりが実践していただいたり発信していただくことで少しずつ動いていくことがあると思いますので、ここで終わりでなく、今日の繋がりを大事にしていっていただけたらなと思います。

それでは、課長さんの方にマイクをお返ししたいと思います。

６　閉　　会

【広報県民課長　藤森茂晴】

久保田さん、皆様、長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以上をもちまして若者タウンミーティングを終了させていただきます。どうも、ありがとうございました。